

家内の心配顔を残して、リハビリ兼ねた新座市内探索に出かけた。新座まちなか観光案内所で貰ったマップで調べて興味深かったのが、「富士塚」と市内に4つある「氷川神社」である。4つを比較してみたかった次第である。

それにしても、自転車で行動するには、市内の道路は整備されているとは云い難い。歩道は狭く危なっかしく、歩行者にも迷惑を掛け、車道も後ろから引っ掛けられそうで怖くて堪らない。歩道から車道に出る際など合図をしても見てくれるとは限らない。

(1) 富士塚について

昔は、関東平野から富士山が望めた。勿論新座でも同様だ。富士講と呼ばれる講が多数存在しており、富士塚も至る所にあるようだ。江戸時代後期には「江戸八百八講、講中八万人」と言われるほど位に盛況であった。

新座市には、所沢に隣接した中野、跡見学園女子大側に富士塚がある。民家の庭に入り込みそうな場所に、写真のような塚が鎮座している。何故、三国一なのかは不明だが。



孫のお宮参りに訪れた品川神社の富士塚は富士山を模して造られており、新座中野富士もそれと同じかと思いきや、大願成就の御礼奉納の塚であるようだ。

(2) 新座4氷川神社について

武蔵の国の守護である氷川神社は、一の宮と称される旧官幣大社大宮氷川神社の分霊神社280社が埼玉、東京及び神奈川県下にあると云われる。

- ① 氷川神社の御祭神は、須佐之男命である。伊弉諾命が禊をされた際に天照大御神、月読命と共に生まれた神であり、その雄々しい性から天照大御神の天岩戸隠れを起こした神とされる。出雲の国では八俣大蛇を退治するなど英雄神として崇められている。八俣大蛇の犠牲になるところだった稲田姫命を娶り夫婦神となった。

② 大和田氷川神社について

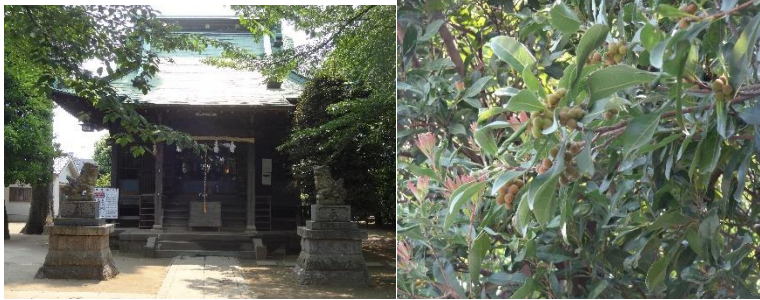


創建が802年と伝わる古い村社であり、由来記等によれば、この氷川神社のある大和田一帯は、古くから鎌倉幕府の支配する土地（国衙領）であった。

大和田氷川神社の夏祭りには、市の文化財に指定されている「大和田囃子」と「はだか神輿」が奉納（披露）される。「はだか神輿」は別名「荒れ神輿」とも呼ばれる勇壮なものである。

③ 野火止氷川神社

野火止氷川神社は、川越藩主松平信綱公が野火止台地を開発した承応2年（1653）の創建と伝えられる。勿論村社である。我が家から最も近く馴染み深い神社だ。境内にあるヤマモモが気になって仕方がない。どうも隔年に赤い実をつけるようだ。幸いに今年はその年だ。官司をお願いして賞味させてもらおう算段。



④ 西堀氷川神社

創建は、詳らかではないが、風土記等の記述によれば、野火止氷川神社以降であるだろうと推定される。一寸特色が？

小生がココフレンドに参加している石神小学校の近くにある。



⑤ 馬場(片山)氷川神社

片山氷川神社の創建年代等是不詳ながら、片山郷の総鎮守として中世に創建したのではないかと云う。近隣の数神社を合祀したとされる。

境内には樹齢700年超の杉の根が、御神木(根)として安置されている。



長い参道が印象的であった。尚、手前の自転車は小生の愛車である。

⑥ これらの神社は、村の鎮守様として地域の方々の崇敬を集めている。氏子諸氏が奉仕しておられる神社と必ずしも十分ではない神社があるようだが、それも致し方ないのだろう。

それぞれの神社に、お参りして、国家の安寧、五穀豊穰、家内安全と幸福を祈った。御賽銭の多寡により、願いが叶えられるかどうかに影響することはなかろう。